想い出の座間
（昭和前期編）

　座間で写真が一般的になったのは戦後に入ってからです。それ以前は写真に接する機会はごく一部の人に限られており、何かの記念に厚木や横浜などの写真屋へ出かけたり、出張して来てもらって撮影するのが一般的でした。従って人物写真が多く、風景や出来事を撮ったものはごく少ないのですが、可能な限りアルバムの中からひろい出して編集したのが昭和61年(1986）3月に発行された「目で見る座間」です。

　この「想い出の座間」は書籍の「目で見る座間」をホームページに忠実に反映することを基本にしております。
　今回は、前回の明治・大正時代編に続き昭和前期を紹介させていただきます。内容は、村の辻々、小田急の開通、戦争へ、銃後、文芸活動に関する写真とコメントになります。

村の辻々

改修前の町田街道と相模が丘

　現在の小田急相模原忠実屋前の交差点付近から北東方を見たところ。左側の桑畑が静岡銀行、右側が辰街道、前方に行幸道路の工事が始まっている。昭和13年秋撮影。

座間の宿の家並み

　現在の座間公園トンネルの上から見たところ。遠くに相模川の流れが光っている。昭和13年撮影。

座間地区　座間の大通り

　中宿不動尊の入口付近から下宿方面を撮ったもの、左側の建物は郵便局、反対側に乗合自動車の看板が見える。昭和初期のもの。

河原宿の風景

　冬であろうか、戦前までは通りからはずれるとどこもこのような農村風景が広がっていた。中ほどを入隊の兵士の歓送の人たちが通っている。昭和12年ごろ。

入谷地区　皆原の家並み

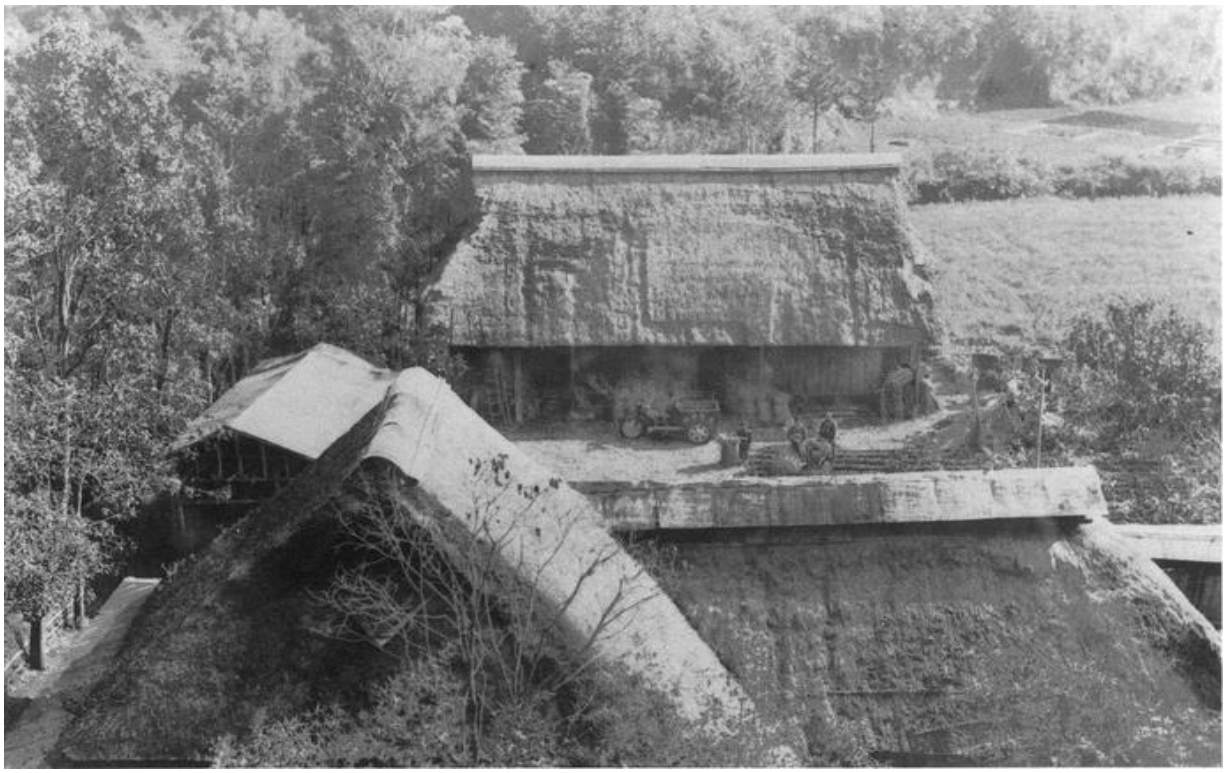
　天台方面の高台から西方を望んだもの。遠方に見えるのは四ッ谷か。
昭和初期。

鈴鹿･根下の遠望

　　河原宿から望んだもの。稲がよくできている。昭和初期。

大欅周辺

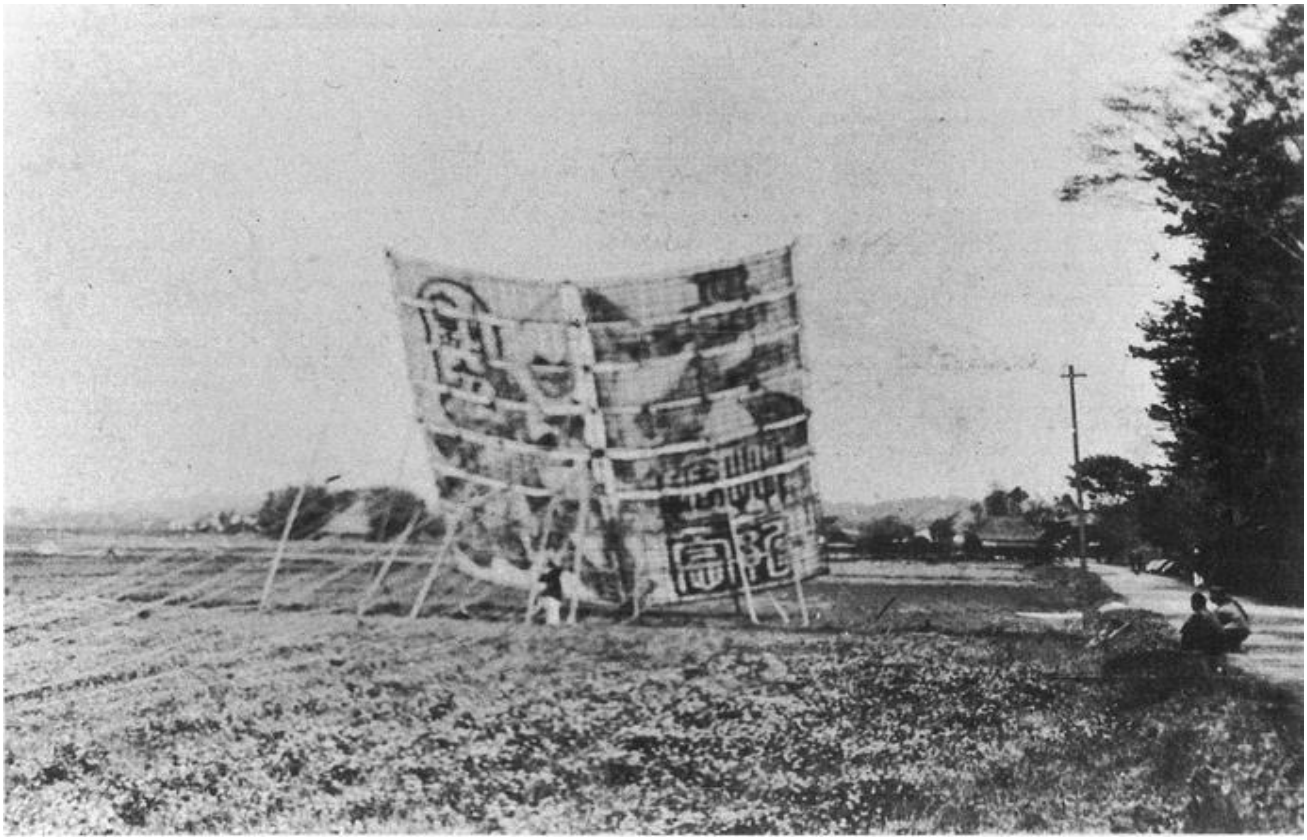
　谷戸の西からみた風景。麦がかなり大きくなっているので春先であろうか。この辺は昔か最高の畑だった。昭和初期。



中栗原の農家

　手前の曲り家型の農家が母屋か、かなり大きな家である。栗家は山を背負っている所が多く、緑が深い。

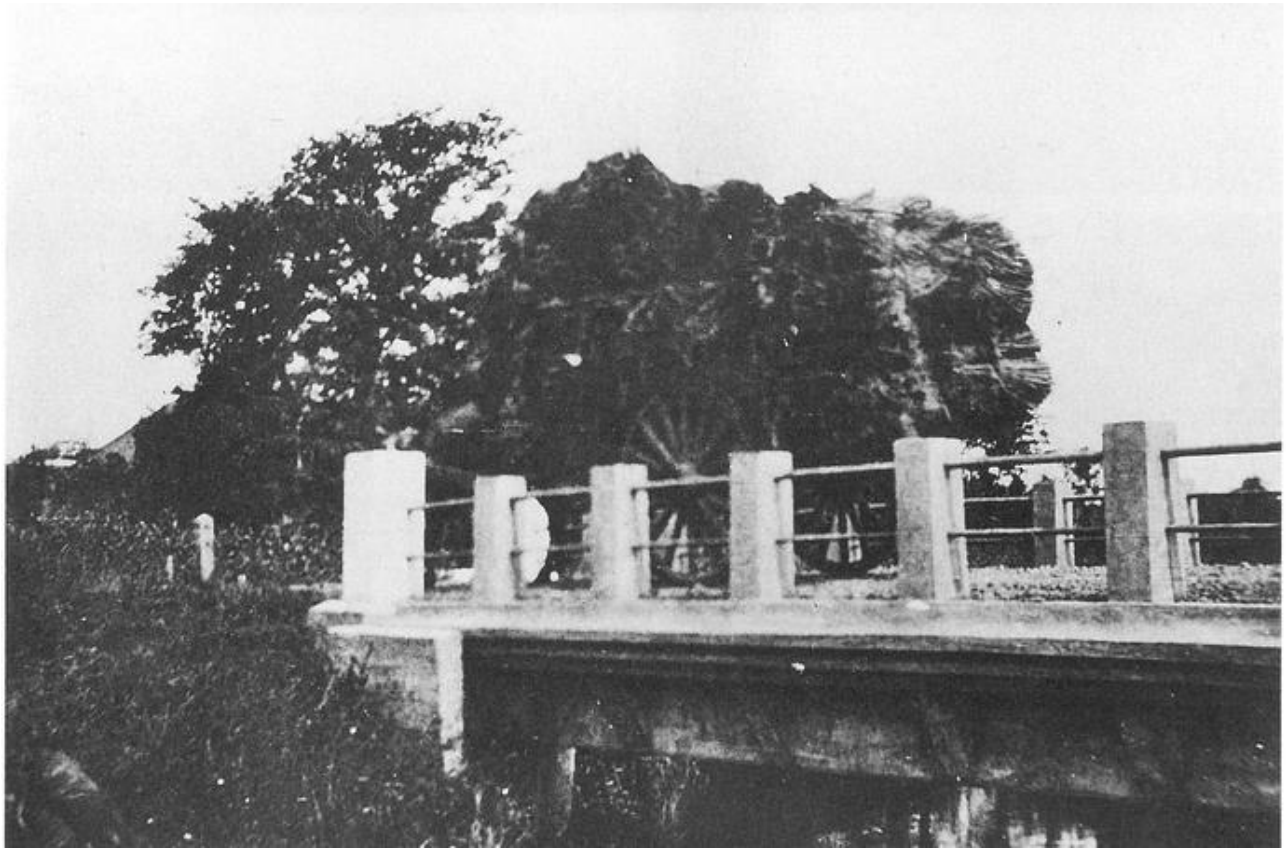
　昭和9年撮影。



四ツ谷の八王子街道と大凧

　右側の森は浄土寺。北に向かって撮ったもの。遠くの家並みは通称向こう三谷といわれている所。昭和7年。

四ツ谷地区　四ツ谷西三谷の遠望



谷間橋を渡る牛車

　牛車に高く積まれているのは麦で、おそらく芝原から運んできたものであろう。昭和5年ごろ。

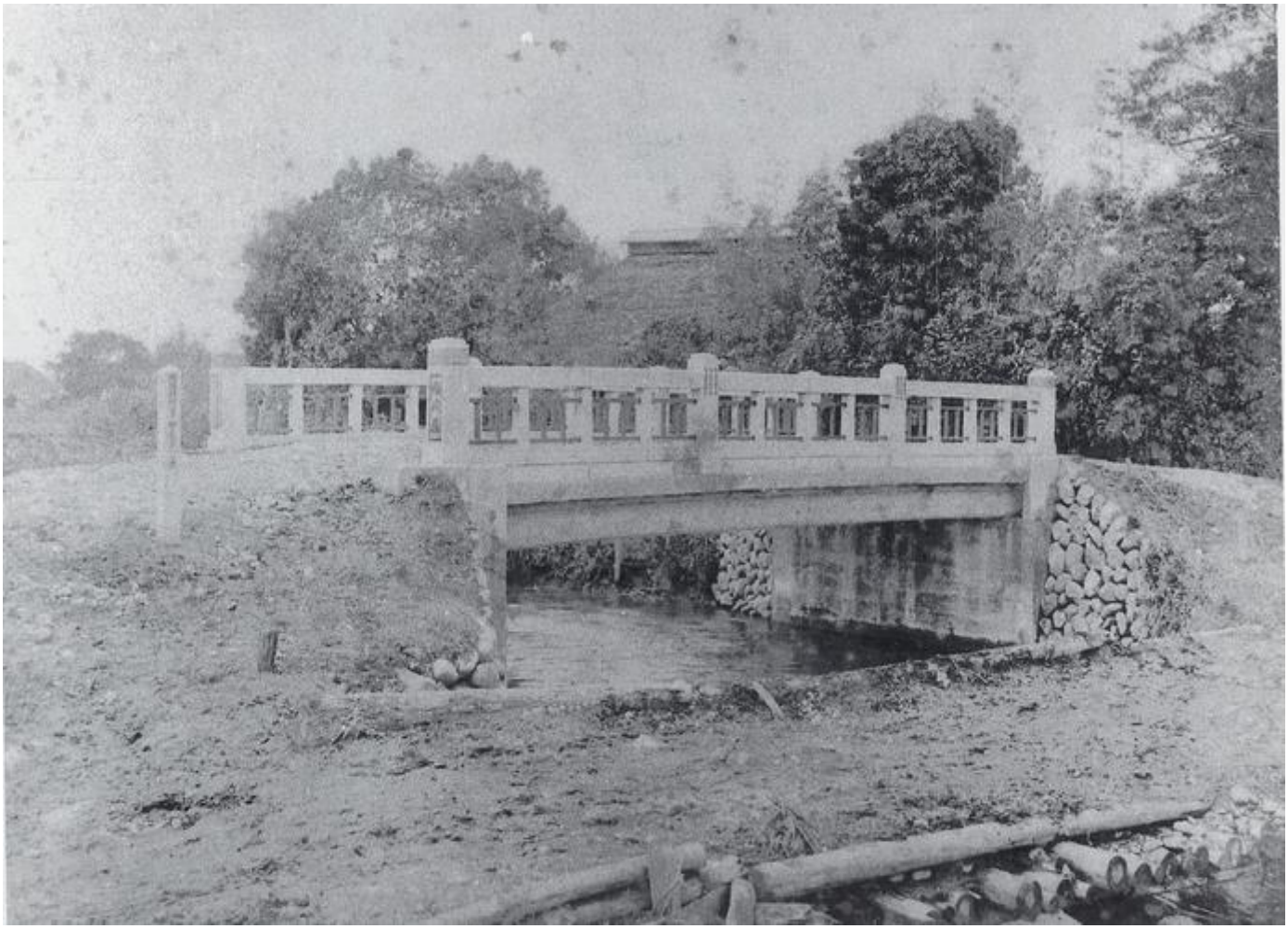
かんざぶ堰

　四ツ谷の東北部、相模線の入谷駅の近くにあった。鳩川の水のよどんだ所にあった堰で、子供の絶好の遊び場であった。昭和5年ごろ。

新田宿地区　新田宿の通り

　新田宿の中央部より北に向かって撮ったもの。

昭和7年のものだが、江戸時代からそのままの家並みであろう。



鳩川橋

　鳩川は改修されるまで新田宿のすぐ東裏を流れていた。

　写真の橋は大震災により壊れたものを架け替えたときの記念で、それ以前の橋名は新田橋と呼んでいた。

小田急の開通　開通記念大凧揚げ

　昭和2年、小田急線開通を記念して5間と7間の大風を揚げて祝った。この凧は右上に赤色で小田急のマークを左下に青色で祝という文字が書かれている。場所は現在の座間駅東側の付近で、開通当時まだ駅はなかった。

座間遊園地記念碑

　小田急開通後、座間駅東の一帯に大規模な遊園地を作る計画をたて、用地の買収を行った。その敷地は、北は今の立野台小学校から、南は立野台の南端までのおよそ74町歩にもおよぶ広大な面積で、凹地の部分を利用して池を作り、周囲を環状道路で結ぶ計画だった。

　実際、ところどころにあずま屋などが建てられたり、昭和12年に駅名が座間遊園に改名されたが、戦時中にこの計画は断念されてしまった。写真の碑は、駅から天台線を上っていったところの、右側の小高い松林の中に建てられていたが現在はない。昭和15年ごろ。

士官学校前駅

　現在の相武台前駅である。この駅は開通当時座間駅と呼ばれ、昭和12年陸軍士官学校の移転により駅名は士官学校前となり、駅舎も写真のように立派なものに改築された。

新座間（座間）駅前周辺

　後方に見える高架線は砂積み込み用のトロッコ線で、当時は相模川の砂利をトロッコで駅まで運び、ここから貨車に積み込んで京浜方面へと輸送した。昭和10年ごろ。

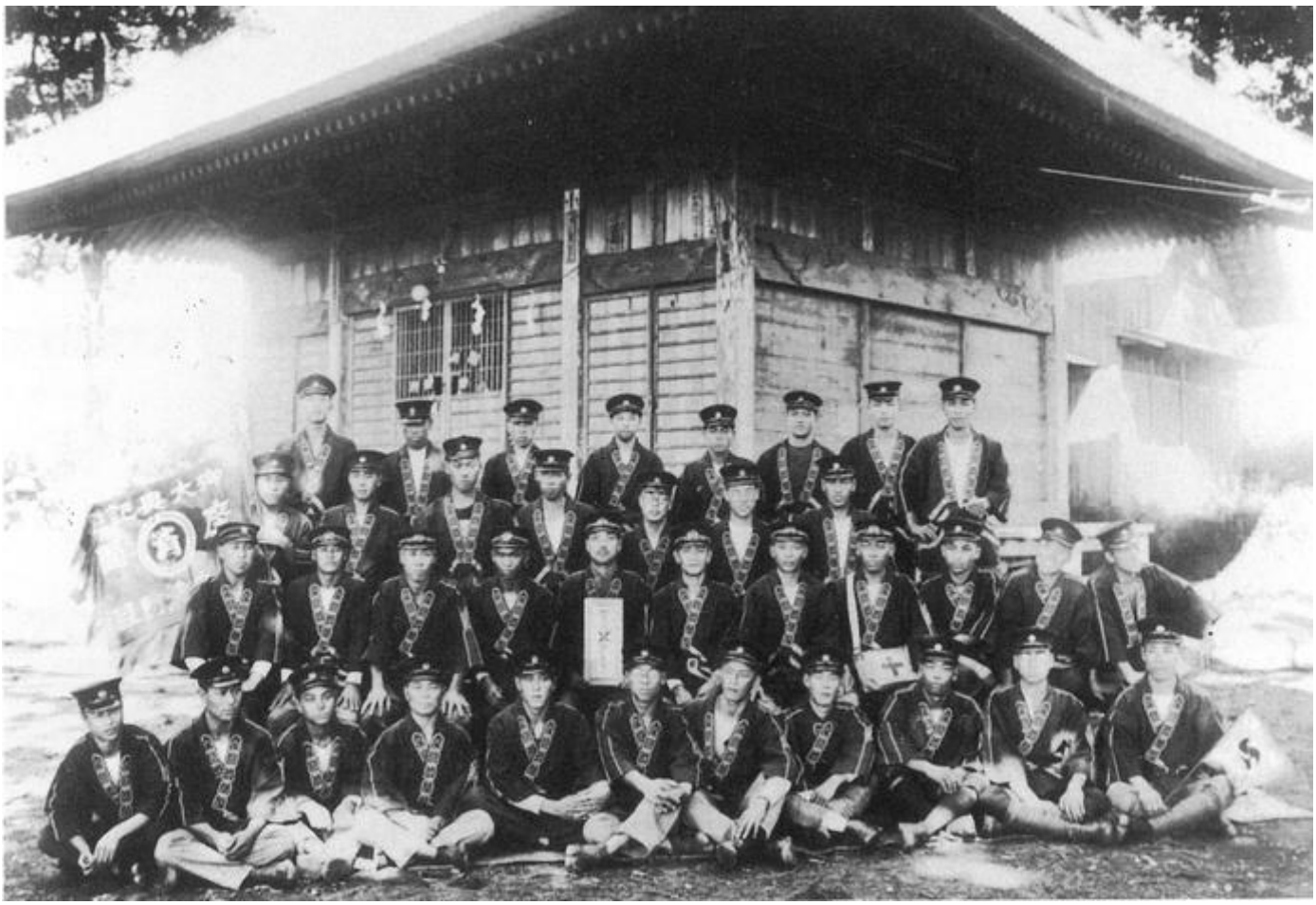
座間タクシー

車庫に入っている2台の車は、名車T型フォードである。
昭和10年。

御大典記念

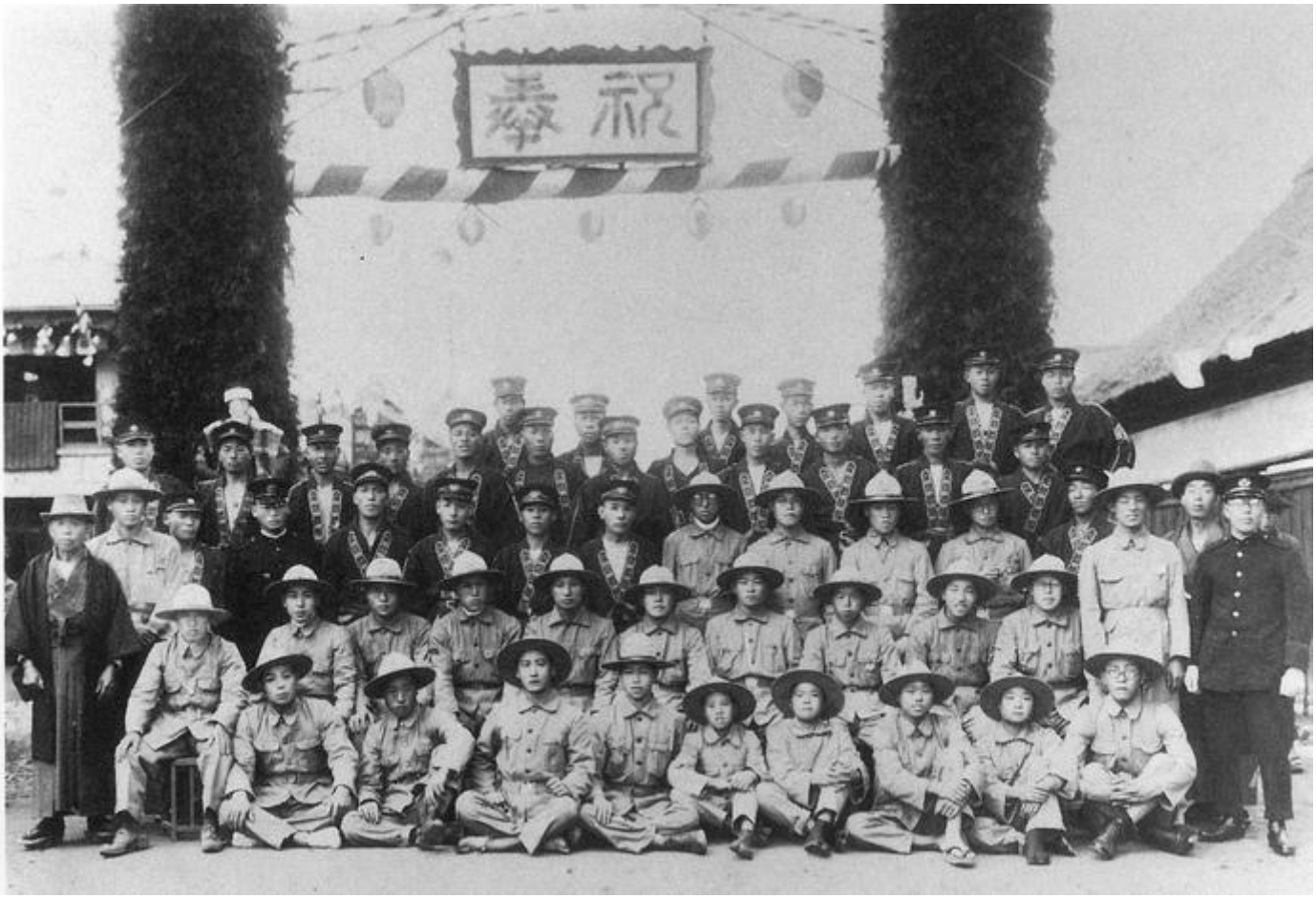
　昭和3年、現在の天皇が即位されたのを記念して、各地でいろいろな行事が行われた。

　新田宿役員御大典記念で役員一同が諏訪神社で御大典を祝った後の写真。昭和3年。



御大典記念大山登山

　座間上宿消防組は御大典を記念して大山登山を行った。



中宿青年団、消防組御大典記念

　座間の宿の中宿交差点にはお祝いを表わすため、杉の枝で飾られたアーチができた。

電話局の開設

　電話は明治42年、座間郵便局に架設されたのが始まりである。その後加入希望者が増え、昭和4年に新磯村と合同して座間郵便局内に電話局が開設された。

　写真は電話局開設関係者記念で中央左が新磯村長、右が座間村長場所は局長自宅前。

電話局建物

1階が郵便局で、この2階に電話交換室があった。

電話局開設式典

　場所は昭和館。式は多くの関係者、来賓が参加して盛大に行われた。

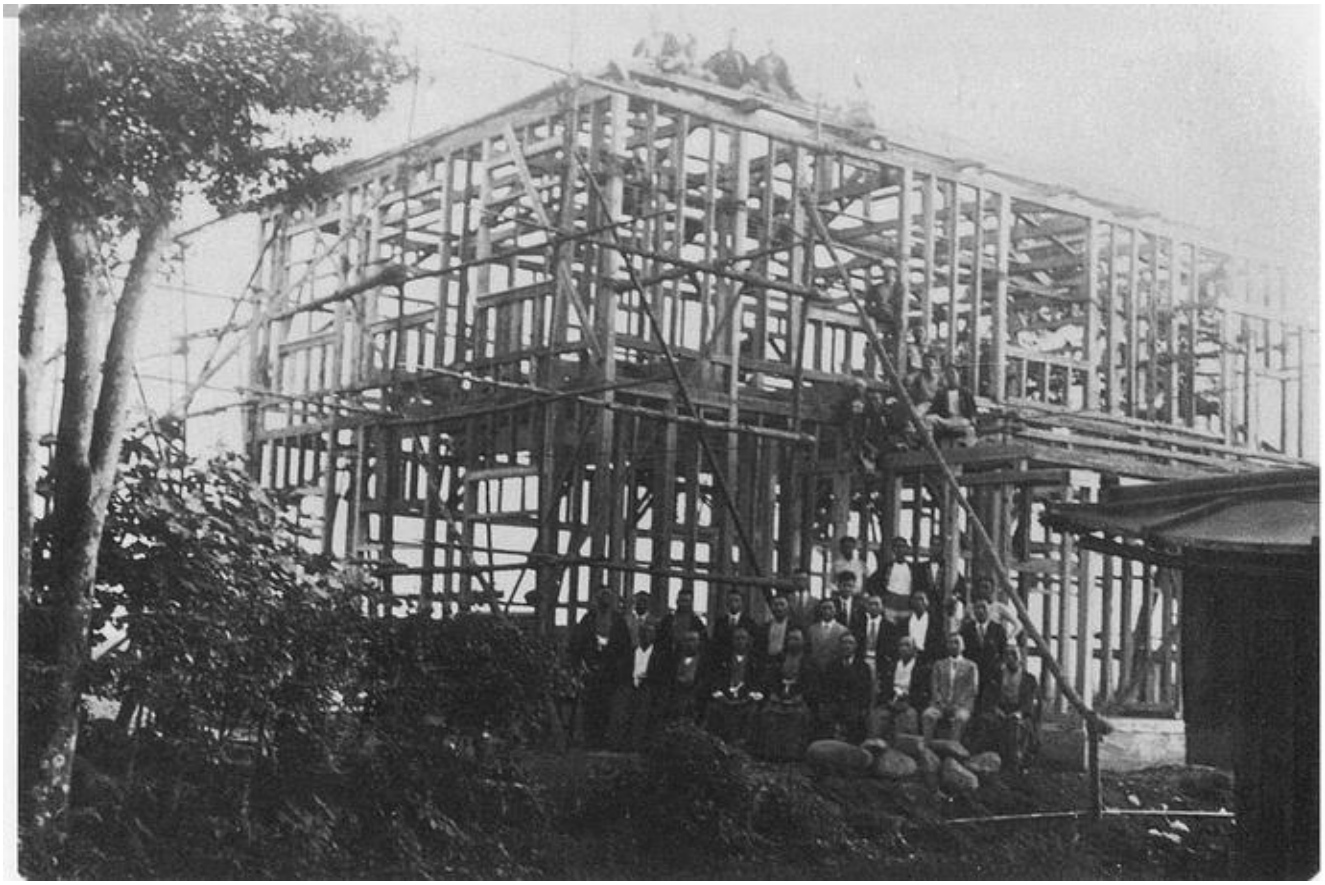
小松原開拓30周年記念

　小松原は明治38年、座間入谷の皆原から芥川松太郎氏がこの地へ移り住み、開墾をはじめた。その後、皆原出身の者が多く移り住んだので、皆原新開などとも呼ばれた。

　写真は昭和9年開拓30周年記念碑を建てたときの関係者の記念撮影。

日露戦役30周年記念

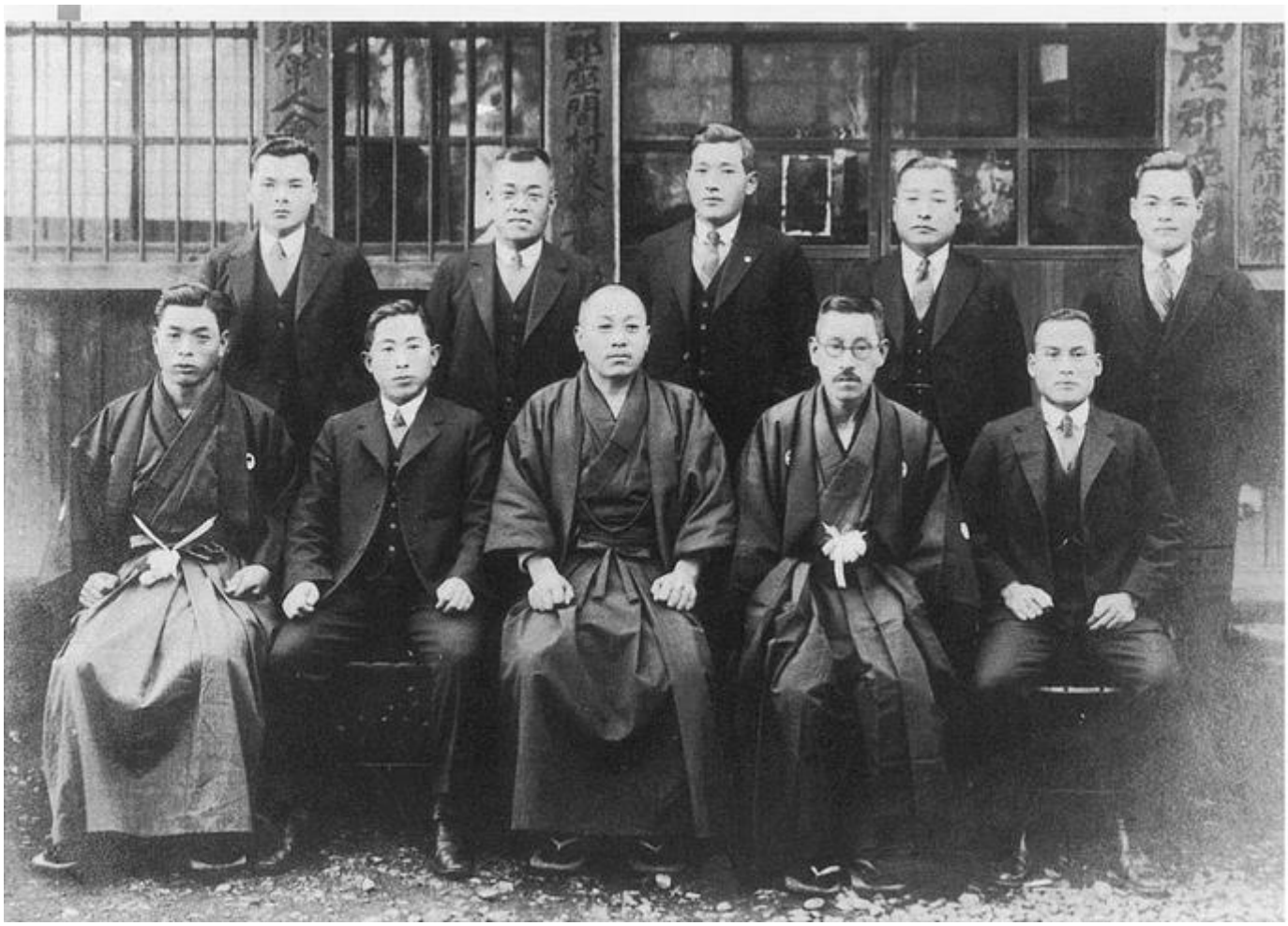
　座間下宿の幼年会が主催したもので、昭和10年の陸軍記念日に行われた。場所は繭の乾燥場前。



役場と職員

役場庁舎の上棟式

　昭和10年に完成したこの庁舎は、農村の中にあって大変にモダンな建物であった。



座間村役場職員

　中央の村長稲垣許四郎氏は、大正14年から昭和16年まで村長・町長を務めた方である。

満州開拓団

　食糧増産を叫びながら、軍用地・工業用地のために農地が破壊されてゆくなかで「満州」移民が奨励された。

　座間からも何人かの人々が、北満の三江省千振街神奈川村に入植した。

　写真は四ッ谷出身の川島勇治さんの満州でのスナップ開拓者の風俗が分かる。昭和9年ごろ。

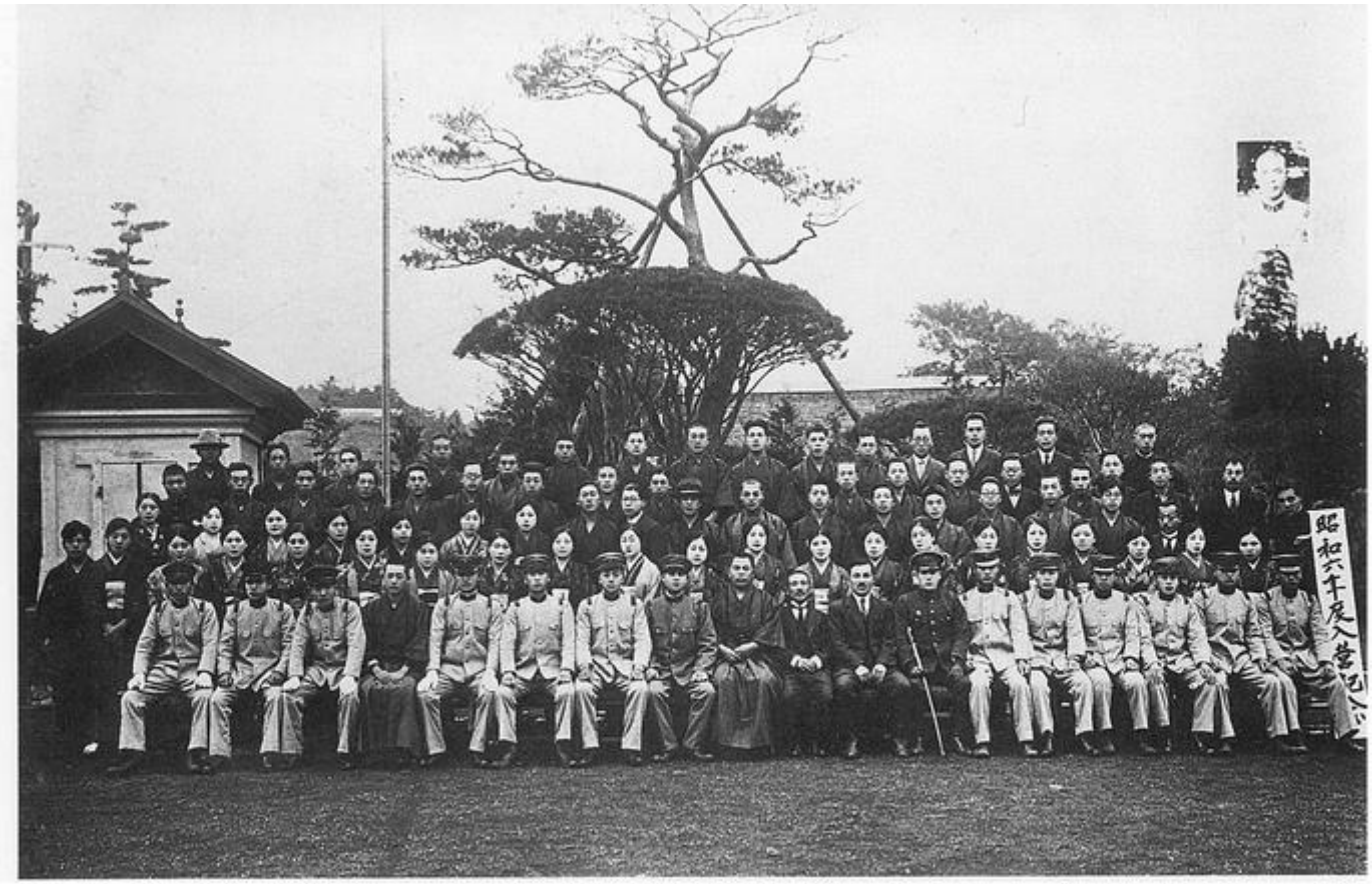
満州開拓村からの絵はがき

　この絵葉書は満州に入植した人からのもので、開拓村を背景に初節句であろうか。

　入植した人たちは、その後敗戦によって困難な引揚げを余儀なくされ、多大の痛ましい犠牲者を出した。昭和9年ごろのものか。

満州国からの教育視察

　視察団に若い婦人が多いのと、迎える側が女子青年団員ということで、婦人問題関係の視察か、場所は座間小学校。昭和10年ごろか。

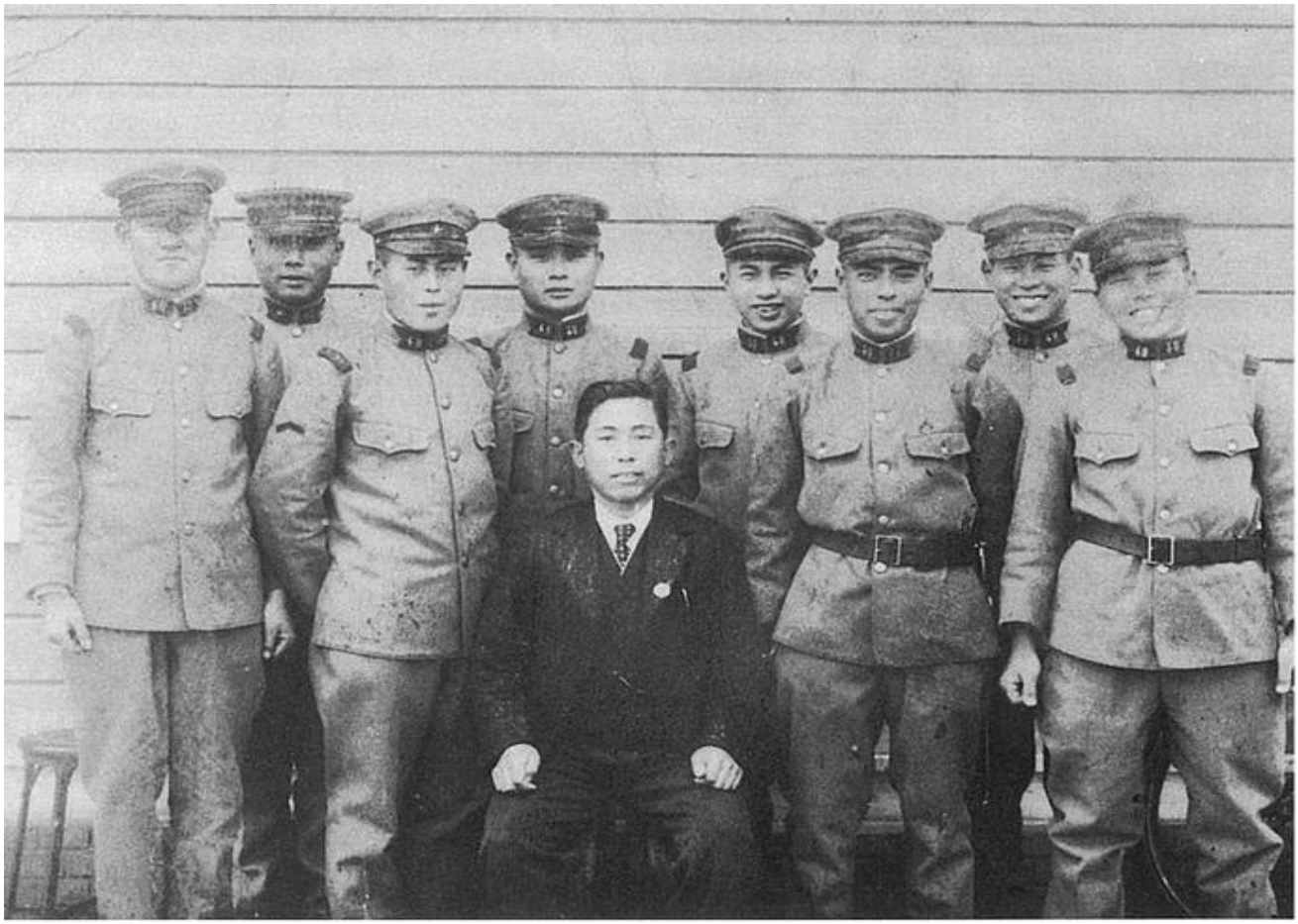


兵役　入営記念

　写真は昭和6年度の入営記念。場所は座間小学校。このように、毎年度の同級生が座間小学校に集まって入営者を送った。入営先は甲府の連隊が多い。

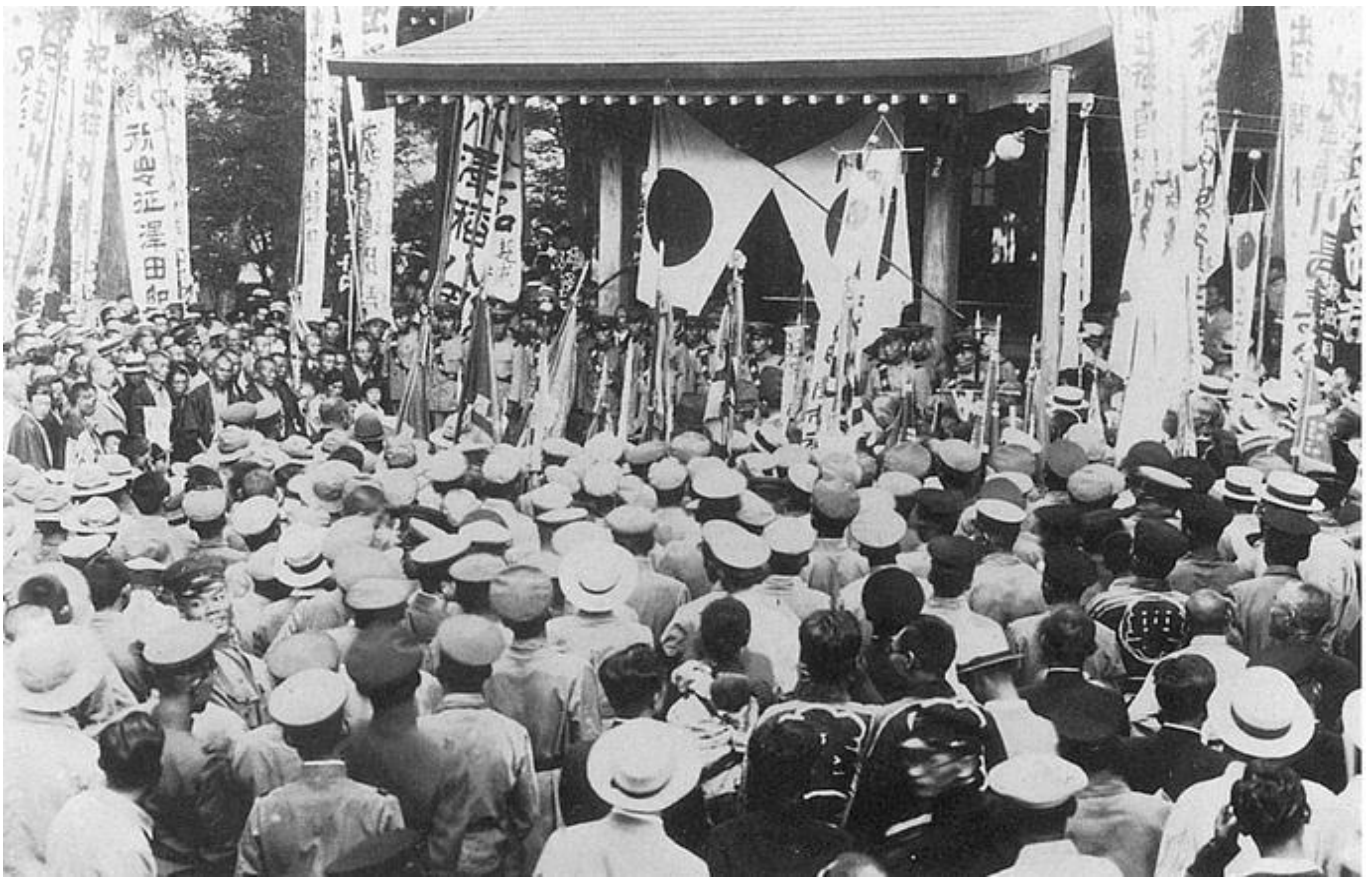
歩兵二等卒の姿

昭和2年頃、甲府の連隊にて。



兵堂における郷土出身兵士

襟章の49は甲府連隊の番号、号,中央の背広姿は座間村助役の野島正幸氏。郷土出身兵の慰問に、連隊を訪れた時の記念か、昭和初期。



戦争へ

昭和12年7月7日、蘆溝橋事件が起き、やがて日中戦争へ拡大し、国民生活全てに戦時色が強まった。そして、昭和16年12月には第二次世界大戦へと突入してゆく。

写真は、出征軍人の見送り 鈴鹿明神で行われた出征見送りの式典。

出征軍人の見送り

座間の宿通りを行く見送りの行列。昭和12年。

武運長久

　座間神社前における、座間地区#身出征兵士の出征記念。昭和15年ごろ。

一別れ―
家族との記念

　出征者があると、一族全員が集まって祝った。戦争が激しくなるとこのような光景があちこちで見られるようになった。昭和15年1月。

家族との記念。

写真は昭和16年7月。

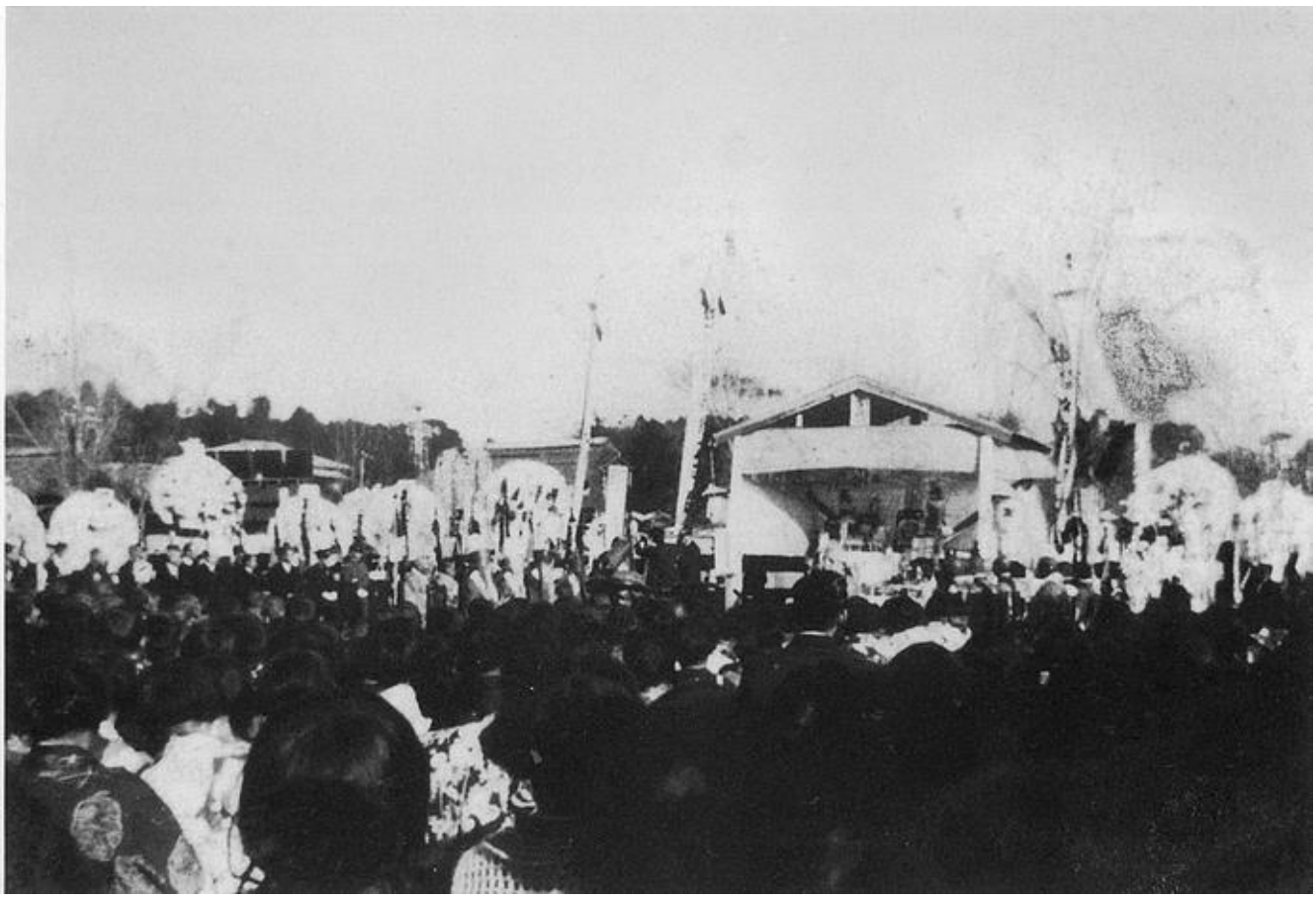
昭和19年9月。

日本の敗色は色濃くなり、若い人の姿が。

祝町制施行・祝南京陥落のアーチ

昭和12年、座間へ陸軍士官学校が移転し、12月に町制を施行する。また、この年に中国南京が陥落した。

写真は中宿の交差点付近から上宿方面を望む。



戦死者の慰霊祭

　日中戦争で亡くなった兵士の合同慰霊祭が、座間小学校で行われた。昭和13年ごろ。

銃後と題した戦地慰問の絵はがき

　座間村女子青年会が、奥多摩旅行の記念写真を座間出身の兵士の慰問用にはがきにしたもの。

　ここの写真には見れないが、左側に短歌二首が印刷されている。

　をみな子は赤き心に祈るなり　晴のを護る
　　君の武運を

　幾山河北にはなれてほこをとる
　　征衣の君を照らす　　月かげ

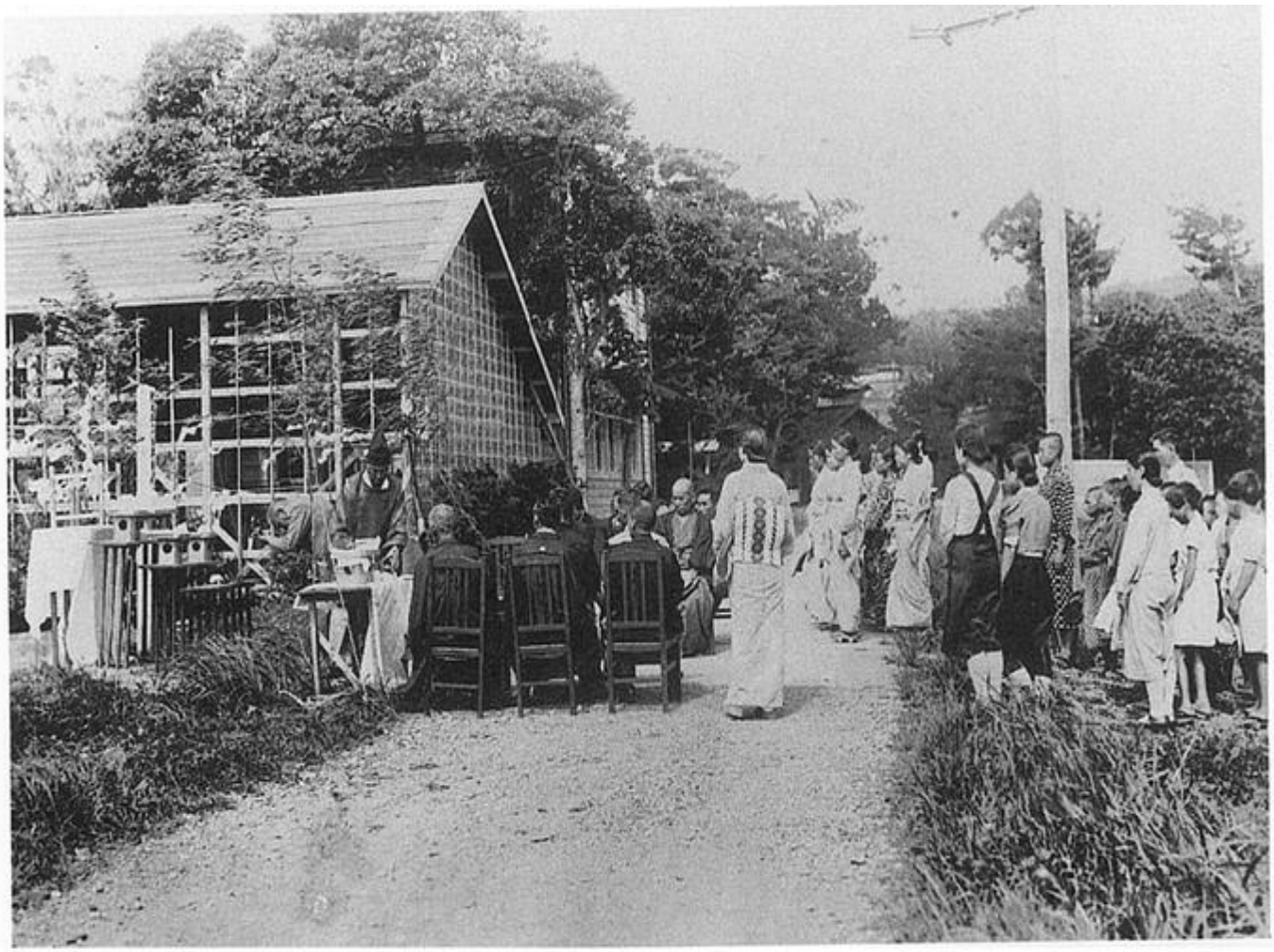
　女子青年団員の作品であろうか。

母と子供

戦地にいる息子へ家族の近況を知らせるために送ったもの。

祈国威高揚・祈武運長久

　皆原男女青年団による、大山阿夫利神社への皇軍戦勝祈願。昭和12年11月24日。



紀元2600年

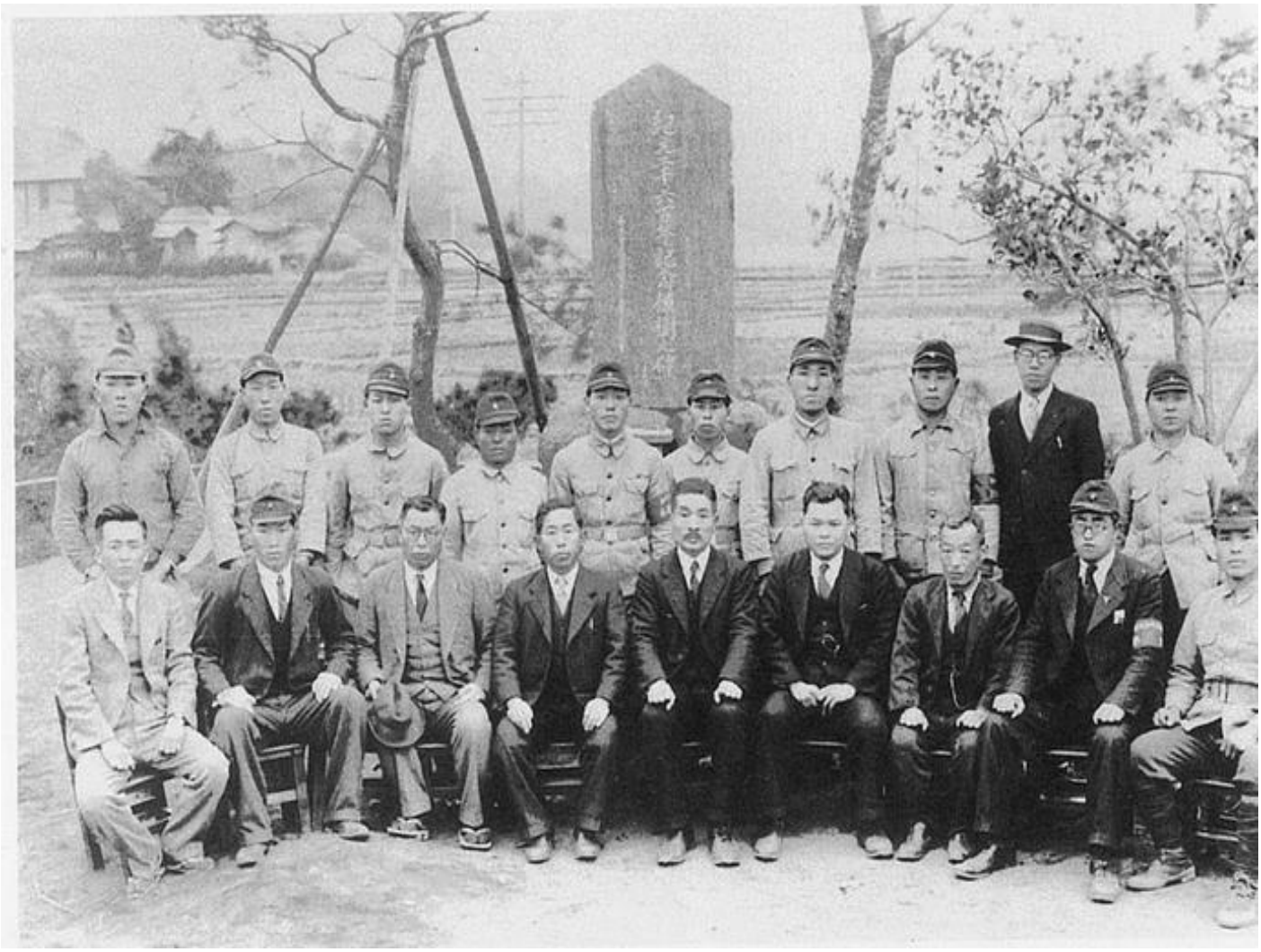
　昭和15年は皇紀2600年に当たり全国各地で記念の式典が行われた。この写真は、献穀米の豊作を祈願する式典。

献穀米の作付け

献穀米の田植え風景。場所は今の農協敷地内か。

記念植樹

　青年団主催の紀元2600年記念の桜の植樹。
場所は座間小学校校庭。



記念碑の建立

青年団主催の紀元2600年記念碑の建立。場所は座間小学校校庭。

座間塾

　座間塾とは士官学校の移転を契機に、軍隊式の教育により子供を育てることを目的として設立された団体で、その建物は今もわかば保育園の施設の一部として使われている。

　写真は、河原での懇談会(昭和14年)

ドイツ人視察記念

ドイツの公使が視察に訪れたときのもの。座間塾の玄関前で。

剣道大会

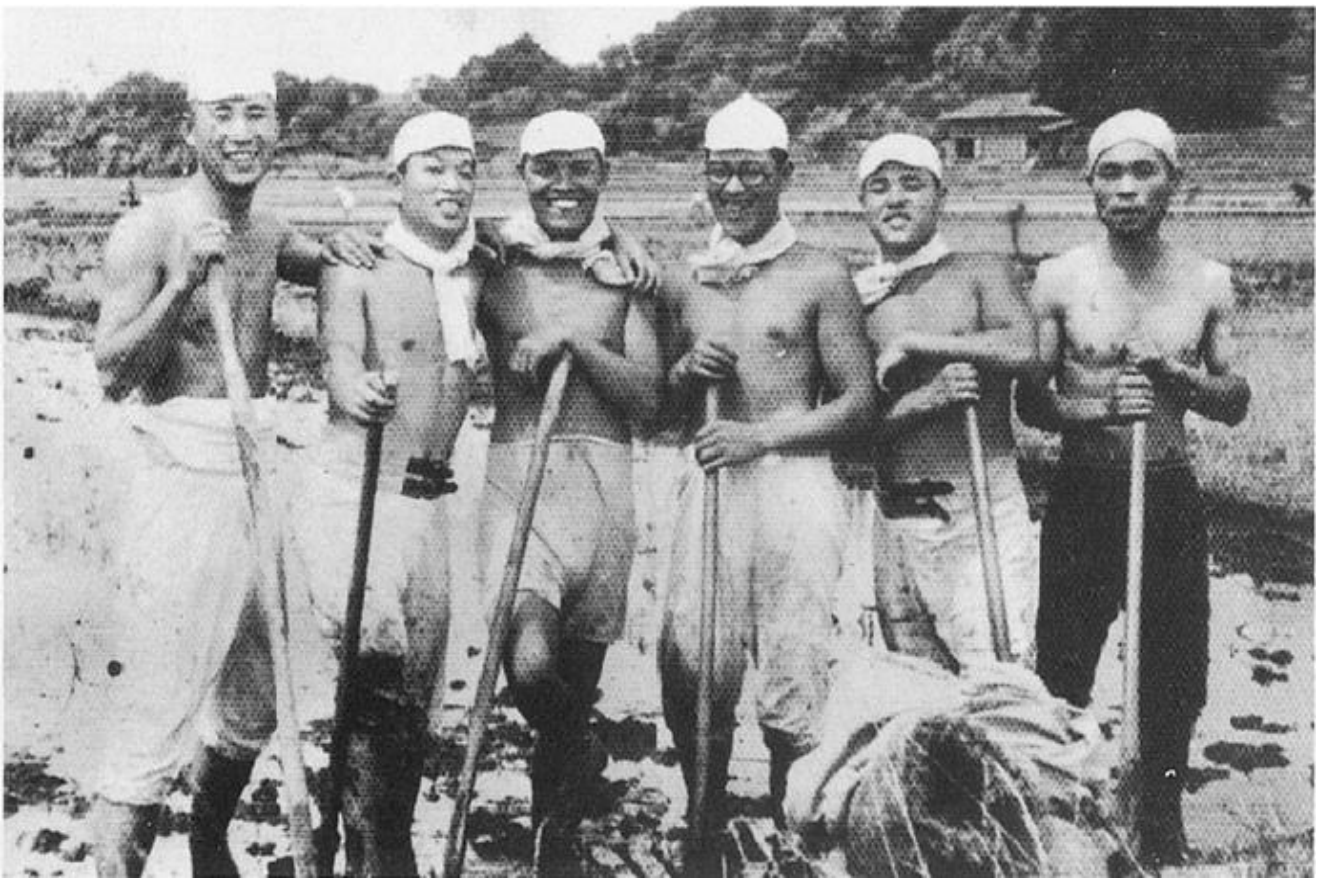
　場所は座間神社境内。座間塾主催の訓練か。戦時中は武道が盛んに奨励された。昭和15年ごろ。

相模原町の誕生

　昭和16年4月、座間町は現相模原市域の7ヶ村と合併し相模原町を形成、軍都相模原が誕生する。写真は第一回相模原町議会の記念。

芝居興業

　座間は昔から芸能の盛んなところだが、庶民の芸能・娯楽も次第に軍事色を色濃くしてゆく。昭和15年ごろか。

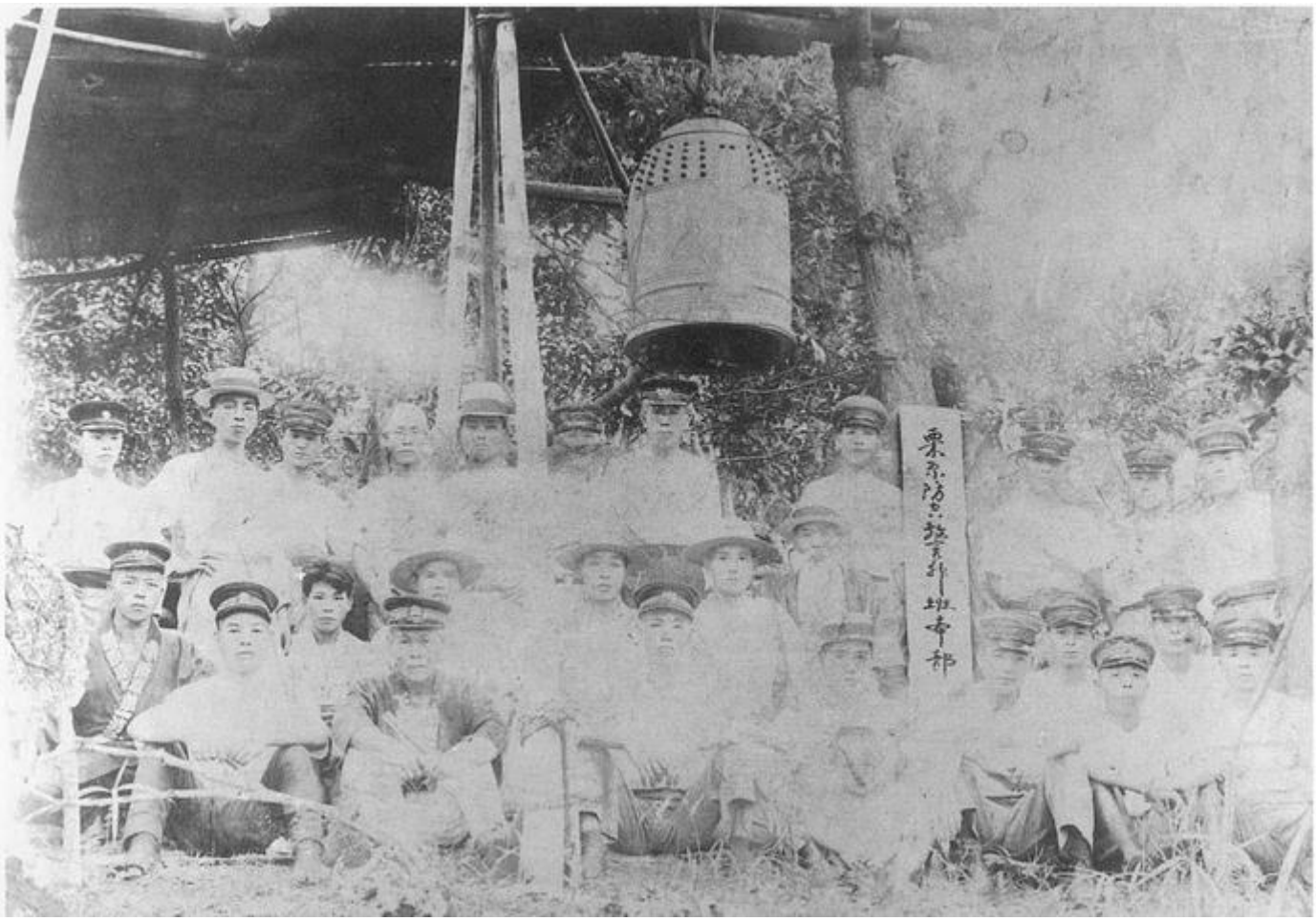


兵隊さんの勤労奉仕

　場所は入谷の桜田、兵隊さんが勤労奉仕で代かきを手伝いにきてくれた。昭和17、8年ごろ。

空襲に備えて　消火訓練

　戦争中は空襲に備えての、梯子やバケツを使っての消火訓練がたびたび行われた。座間下宿町内。昭和17年ごろ。



栗原防衛警報班本部

京浜地区が空襲されるようになると、軍事施設を周辺にひかえた栗原では、中栗原の山の上に防衛警報班本部を置いて警戒に当たった。

子供

日だまりで

正月の晴着姿であろうか

しんし張(布をピント張ること）をする婦人

モンペ姿の年ごろの女性

モンペ姿の女学生

文芸活動　文芸誌「オリオン」の同人

　昭和の初期は全国的に文芸活動が盛んで、各地で同人誌が刊行された。座間でも池上登氏松村松太郎氏などによって同人誌"銀河"が刊行された。

　写真は、その後に刊行された"オリオン"の同人たち。

同人誌オリオンの編集中のスナップ。
　昭和4年。

"武相の若草"の同人たち

　神奈川県青年団連合会発行の"武相の若草"は総合文芸誌であり、青年団活動の盛んな座間からは多くの投稿があった。写真は昭和10年新磯小学校(相模原市)における人たちの集いのときの記念。

昭和前期編

完